

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（国語）

東京都北区立としま若葉小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	読み書きの習熟度に差がある。ひらがなを書くことや語のまとまりで捉え読むことが困難な児童もいる。濁音・半濁音、拗音や促音を正しく理解し表記すること、伝えたいことを作文に書くことが難しい児童も多い。実態に応じた手立てを用いて授業を進める必要がある。	濁音・半濁音、拗音や促音を使って文章を書く機会を定期的に設ける。作文を書くときは、習得したことが生かせるようにしていく。読書や読み聞かせのように言葉に触れる機会を多く設け、語彙を増やしていく。	補充：音読を毎日行ったり、家庭学習で取り組ませたりする。週末には日記を書く課題を出し、書く機会を確保する。 発展：形式的な文章表現だけでなく、自分の考えや、友達の発表の様子を書く活動に取り組み、テーマに沿って表現する力を育成する。
2年	問題文を読み、何を答えればよいか分かるよう、情報処理能力を高める必要がある。身近なものの名前・事象を表す言葉が分からないことが多いので、語彙を増やしていくようにする。	指示語が表すものを矢印でつないだり○で囲んだりして、設問の内容を正確に理解するように指導する。教科書「ことばのたからばこ」を取り扱ったり読み聞かせをしたりして、言葉の知識を増やしていく。	補充：短文作りや季節の言葉集めを通して、表現の幅を広げていく。 発展：様々なジャンルの本を用意するようにし、言葉への興味を広げられるようにする。
3年	物語文の内容の大体を読み取ることに課題がある。語句の意味が分からず、文の意味を捉えることも苦手な児童も多い。語彙を増やす取組が必要である。説明する文章を書くことへの取組も不十分であった。	意識的に読み聞かせを行うようにし、語彙を増やす。物語文の内容を読み取る活動を継続して行い、内容の大体を押さえられるようにする。いろいろな形式の文章を書く活動に取り組み、文を組み立てて書くことに慣れていくようにする。	補充：国語の教科書の巻末「ことばのたから箱」を活用し、出ている言葉の意味を調べたり、使ったりする。 発展：既習事項をもとに、各教科の様々な場面で文を書く機会を設け、書く力を付けられるようにしていく。
4年	児童の語彙を増やす取組が必要である。一斉授業の中では、自ら言葉を使う経験が積めていないことが予想される。書かれていることの大体を捉えることやまとめる(要約する)課題への取組が不十分であった。	話し合いやグループ活動の頻度を高めることで互いに「話す⇔聞く」「書く⇔読む」場面を増やし、言葉に触れることや使うことを意識付ける。文章内容の読み取りでは、文や段落の要点をまとめられるようにする。短作文を書く活動に取り組み、文を組み立てて書くことに慣れていくようにする。	補充：グループ読み、全体読みなど学習の始めに様々な方法で音読する場面を設定する。 発展：書くことへの抵抗感をなくすために、まとめや感想など、他教科でも文章を書く機会を増やしていく。
5年	与えられた条件の中で、漢字を使って文章を書くことに課題が見られる。文章を書くことに関しては、書く目的を明確にし、児童が「書きたい」と思えるような題材を選択していく必要がある。	目的を明確にして文章を読むことや文章を書く経験を積ませる。また、短文作りを取り入れながら、言葉の使い方の理解を深める。漢字の書き取りは、毎日の家庭学習で行う。また、漢字テストを定期的に行い、定着を図る。	補充：漢字や言葉の学習に関する反復練習を行う。文章を書くときには、目的意識をもたせて構成メモを作成し、段落を意識して書き進められるように、段落ごとに印をつけるなどしていく。 発展：様々な教科において、自分の考えや感想を書く時間を設定する。
6年	書くことに苦手意識をもつ児童が多かったので、ポイントを明確にし、例を示すことでその意識を取り除いてきた。そして、書いた後には努力とよさを認めてきた。このことから、学習意欲が高まり、成果が現れたと考えられる。	音読で文章を正確に読むことを意識させ、言葉の使い方や定着させる。また、音読後、言葉の意味を調べる時間を設定するなどして、言葉の意味を正しく理解することを意識させる。これらのことを通して、言葉の学習を定着させたい。	補充：漢字の家庭学習に毎日取り組ませて、漢字の定着を図る。文章では、簡単な振り返りを書くことに毎日取り組ませる。 発展：図書館司書と連携し、本を読むことで、漢字や文章に触れる機会を多く作る。

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（社会）

東京都北区立としま若葉小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	表やグラフ等の資料を読み取る力は育成されているが、それを自分の言葉で表現する力が身に付いていない。また、学習で学んだことを自分の言葉でまとめる場面では、言葉選びに時間がかかり、手が止まってしまう児童が多い。そこで、数名の児童の手本を提示したり児童の言葉を使って一緒にまとめたりし、工夫して指導する必要がある。	写真やイラスト等、資料を随時提示し、児童の学習意欲を高めていく。そこで、その資料を根拠に説明する機会を多く設定し、自分の考えを表現することで思考力の向上を促す。また、学級全体で児童の考えを共有したり児童の言葉を使って学習のまとめをしたりし、自力で問題解決に向かえるようにしていく。	補充：単元のまとめの際に、いくつかの用語を提示し、その用語を使って学習内容をまとめる活動を設定する。また、地図記号等の知識の確認を定期的に行う。 発展：インターネットや新聞、図書等を活用して多くの資料に触れる機会を多く設定する。
4年	グラフや図を読み取る力、それを自分の言葉で表現する力が身に付いていない。また、社会的事象がもつ様々な側面を多様な角度や立場から考えることに課題がある。	グラフや図の見方について学級全体で確認する。話し合いの場を設け、児童が友達の考えを参考にしながら物事を多面的に捉え、自分の考えをより深めていけるようにする。また、多角的に考える際は主語を明確にするなど表現の仕方について例示し、自分の考えを書きやすくする。	補充：用語については、都道府県名を中心に毎時間の授業の中で確認を行う。さらに、単元のまとめの際に、いくつかの用語を提示し、その用語を使って学習内容をまとめる活動を設定する。 発展：インターネットや新聞、図書等を活用して様々な資料に触れる機会を設定し、必要な資料を選択できる力を高めていく。
5年	基本的な知識の定着が十分ではなく、資料を読み取る力、読み取ったことを自分の言葉で表現する力が育成されていない。また、物事を関連付けて考えることができない児童が多く、用語の理解を含め、それらを問題の中で活用できないことが課題である。	児童の関心を高めるため、写真やイラスト等、資料を随時提示する。そこで、身近なこととして事象を捉えることができるような資料を読み取り、調べたことを発表する時間を設定する。また、地図帳や白地図を活用する機会を多くし、都道府県や日本の周辺の国の位置について理解が深められるようにしていく。	補充：用語については、毎時間の授業の中で確認を行う。さらに、単元のまとめの際に、いくつかの用語を提示し、その用語を使って学習内容をまとめる活動を設定する。 発展：インターネットや新聞、図書等を活用して多くの資料に触れる機会を設定し、必要な資料を選択できる力を高めていく。
6年	写真、図、文章資料の読み取りの時間を十分にとると共に、友達と話し合っって読み取ることも認めた。このことにより、児童が安心感をもって取り組むことができ、成果が現れたと考える。	資料から読み取れた事実から、何がいえるかを考える時間を設定していく。また、映像資料を活用し、具体的なイメージをもたせることと、事実とそこからいえることが整理された板書をすることで、理解が深められるようにする。	補充：単元のまとめで、用語を提示し、それを使って学習内容をまとめる活動を設定する。 発展：新聞にまとめる活動を取り入れ、児童が興味をもったことをさらに深く調べる活動を設定する。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（算 数）

東京都北区立としま若葉小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	答えが10以内のたし算、ひき算において、ブロックや指を用いることを必要とする児童もいる。文章題において、文章の内容を理解してイメージすることや自分の考えを言葉や式、図、具体物を使って表現することが難しい児童もいる。より実態を考慮した指導を行うようにする。	計算プリントに繰り返し取り組むことで、たし算やひき算の確実な定着を図る。自力解決の場面では児童の思考を把握し、個別指導をしたり、よい表現の仕方を共有したりすることで、どの児童も考えを言葉や式、図を用いて表現できるようにする。文章題を解くときは、分かっていること、聞かれていることを明確にし、問題場面を想像できるようにする。	補充：毎日音読をし、10の構成や10までのたし算・ひき算の定着を図る。プリントやドリルを活用し、計算練習を行う。eライブラリを活用した個別学習を実施する。 発展：他教科との関連を図りながら、様々な場面で算数で学習した内容を生かせるように指導する。
2年	必要な情報を読み取ることが難しい児童が多い。文や図、グラフなどから分かることを、説明する経験が足りず、自信をもって取り組むことができていないと考えられる。	どこに注目するかは、その都度全体で確認をする。ペアやグループで説明する活動を取り入れるようにし、説明する経験を積むようにする。単元に出てくる用語の意味を押さえ、それらを使って説明するようにする。	補充：類似問題に取り組む時間を取り、習熟を図る。 発展：学習内容と日常生活とのつながりを考え、どのような場面で役立っているかを見付けるようにする。
3年	基礎的・基本的な内容は身に付いているが、個人差が大きい。学習の定着を図るために、具体物を使った算数的活動や数学的な見方・考え方を働かせる活動を十分に行っていく必要がある。	日常生活と結び付けて考える習慣を付けられるよう、具体物を使って考えさせたり、既習事項を基に説明したりする活動を行っていく。問題で問われている内容を正しく理解できるように、教科書やプリントの問題文の読み方を指導する。	補充：授業の始まりに前時の振り返りをして、全員がその日の学習課題に向き合えるようにする。 発展：自分の考えを説明する機会を多く設定する。応用問題のプリントなどを用意して、意欲的にチャレンジできるようにする。
4年	文章題等のじっくり考える問題に苦手意識がある。問題の意図が分からなかったり、解決方法が思い浮かばなくて取り組めなかったりすることが考えられる。	問題の意図を全員で確認し、解決方法の見通しをもたせることを丁寧に行っていく。ノートを教師がこまめに確認して助言を行い、確実に一人一人が自力解決する習慣を付けていく。	補充：宿題や個別指導でたし算、ひき算、九九などの計算に継続して取り組めるようにしていく。 発展：問題文作りに取り組んだり、学んだことが日常生活のどこに使われているかを見付けたりする活動を多く設定する。
5年	基礎的・基本的な内容の定着度は個人差が大きい。また、基礎的・基本的な知識は定着していても、それを活用して問題を解決することに苦手意識をもっている児童が多い。さらに、問題文が長い、解決するのに時間がかかりそうな問題には、取り組まないという児童も見られ、類似する問題に多く取り組ませることで、自信をもって取り組めるようにしていく必要がある。	習熟度別指導をより効果的に行うために、それぞれのグループの実態に応じた問題や教材を用意する。文章題では、原則として数直線を活用して立式するよう指導し、一人一人が文章と式の意味を理解して学習を進められるようにする。	補充：毎日学習した内容を宿題にし、復習できるようにする。また、宿題で理解できていない児童には、個別に指導して定着を図る。 発展：自分の考えを説明する機会を多く設定する。応用問題に数多く取り組めるようにする。
6年	問題解決の場面では自力解決だけでなく、友達と相談して解決することも認めた。また、問題解決に多くの時間をとるのではなく、練習問題に取り組む時間を十分に確保した。このことが成果に現れたと考える。	どの習熟度別コースで取り組むかは児童に選択させ、主体的に取り組む態度を育てていく。文章題では数直線を活用したり、言葉の式を作ったりして式のイメージをもたせて学習を進められるようにする。	補充：毎日学習した内容を宿題にし、復習できるようにする。また、宿題で理解できていない児童には、個別に指導して定着を図る。 発展：自分の考えを表現し、説明する機会を多く設定する。また、応用問題に取り組む機会を多くする。

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（理 科）

東京都北区立としま若葉小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	共通の体験から、気付いたことや見いだした問題を言葉で表現するところに課題がある。理科で学習する用語を使って話し合ったり考えたりすることに課題がある。	話し合いの場面では、理科で学習する用語を使うように、教員が支援しながら話し合いを進めていく。学習した用語を使って紙にまとめるなど、学習を振り返る活動を行う。	補充：学習した内容や用語の意味が振り返れるよう、掲示物を作成し、活用しながら学習を進めていく。 発展：学んだことが日常生活のどの事象に結びついているかを見付けたり考えたりする活動を行う。
4年	実験や観察に対して意欲的に取り組んでいるように見られるが、今何について解決させようとしているのか目的が分からず活動している様子が見られる。そのため、既習概念を他の事象に置き換えて考える設問などにも手を付けられない傾向が見られる。	ICT機器を活用して、取り組んでいる内容(学習資料)を繰り返し見返すことができるようにしたり、友達の考えを見ることができるようにしたりする。活動内容を明確にして取り組むことを意識付ける。学習した用語を使って紙にまとめるなど、学習を振り返る活動を行う。	補充：学習した内容や用語の意味が振り返られるよう、学習ノートを作成し、振り返りながら学習を進められるようにする。 発展：学習課題に対して「予想する」「関係付ける」ことを大切にさせていく。
5年	実験の目的を明確にし、実験の方法や予想など、自分の考えをしっかりとって取り組むことに課題がある。また、実験・観察の考察・まとめを自分の言葉で表現する力が身に付いていない。キーワードを示し、自分の言葉で考察を書けるようにしていく必要がある。さらに、体験や日常生活と結び付けて考えることで、必要感をもたせるようにする。	予想・計画・実験・結果・考察の学習過程を基本とし、できるだけ自分の言葉や図で表現するノート作りをするよう指導する。理科支援員と連携をとり、実験・観察の方法についての教材研究を深める。また、理解を深めるためにデジタル教材の活用や日常生活との関連付けを図る。	補充：ワークシートを工夫し、学習の流れを示すとともに、自分の考えを書きやすくする。実際に見ることや触れることができない学習については、デジタル教材を活用する。 発展：単元終了後も、継続的に調べたり、観察したりする場を設ける。
6年	身の回りのものから具体的にイメージし、それを使って実験することで予想を立てながら取り組むことができた。しかし、実験道具の使い方が分からず、実験が思い通りにならないこともあった。また、実験・観察の考察・まとめを自分の言葉で表現する力が身に付いていない。その際には、キーワードを示し、自分の言葉で考察を書けるようにしていく必要がある。	理科への理解を深めるために、教師の言葉での説明に加え、実物や映像等を取り入れて視覚からも情報を取り入れることで理解を深めていく。また、グループでの交流が難しいので、全体で発表した児童の言葉を共有し、自分の考えを再構築する活動も取り入れていく。	補充：初めて使用する実験器具がなかなかうまく使えない児童がいるので、順序の分かるプリントやデジタル教科書を活用していく。 発展：以前に学習した単元との関連がある場合は、振り返りながら結び付きに着目させる。

〔様式3〕

## 指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（外国語）

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
5年	聞く力・話す力の個人差が大きい。特に、英語を話すことに苦手意識をもつ児童が多い。そのため、英語を聞いたり話したりする活動を増やしてきた。	ALTが話す英語やデジタル教科書の英語を繰り返し聞かせる。ゲーム活動を取り入れて、楽しみながら繰り返し発音させる。	補充：短時間学習も活用して、単語のスペルに注意しながら英語を正確に書かせる。 発展：ALTの口の形に注目しながら聞いて英語を発音させる。
6年	児童が話すことを大切にしてきた。話す時間を十分確保すると共に、発表もより多くの児童ができるようにした。また、発表後は賞賛し、話すことに自信をもたせるようにした。書くことについては、全てを英語で表現できていなくても、まずは書くことに挑戦するところから指導しているため、調査結果には結び付かなかった。	話す、声を出すことを大切にしながら、語彙や表現に慣れさせる。また、書く活動にも丁寧に取り組んでいく。4線を意識してアルファベットを書くことや、単語と単語の間にスペースを取るなどをモジュールの時間に確実に指導していく。	補充：表現時に黙ってしまう児童に寄り添い、話し方（表現）を示範したり、話す相手になったりし、児童に自信をもたせる。 発展：表現したいことが学習内容を越えることも認め、児童と一緒に話し方（表現）を調べる。